

完全コピー・シリーズ 2

# KEITH JARRETT

キース・ジャレット ピアノ奏法 **VOL 1**

by Yasutosi Imamori

CHUO ART PUBLISHING CO., LTD.



## 序 文

キース・ジャレットの代表的レコード「STANDARDS, VOL.1/キース・ジャレット・トリオ」、「STANDARDS, VOL.2/キース・ジャレット・トリオ」、「星影のステラ/キース・ジャレット・トリオ“スタンダーズ”ライブ！」この三枚のレコードより曲を厳選して精緻に採譜し、それを分析したのが本書です。

キース・ジャレットの音楽活動は、ユニークなピアノ・ソロの数々のアルバム『代表作“ケルン・コンサート”(ECM)』、またクラシックへの接近といった、これまでのジャズから少し離れた活動が注目をあびていましたが、80年代に入ってスタンダード・ジャズに関心を示し、大変話題となりました。

キース・ジャレットのピアノは、人間的なぬくもりを持つ素晴らしい世界を形成しています。彼のピアノ技法は、豊かな色彩感、ダイナミズムの点において他のピアニストと一線を画しています。ある意味で、日本音楽における尺八の演奏のように、一音一音に自己の全存在を賭けた、凝縮した表現につながっているのだと思います。

本書が、キース・ジャレット研究のお役に立てれば幸いです。なお、本書を編集するにあたり、紺屋達子氏に協力して頂いたこと心からお礼申し上げます。

1988.3.28

紺屋達子

# KEITH JARRETT VOL.1

●序 文

キース・ジャレット・ヴァイオグラフィー……………3

本書の使用方法……………4

稲森康利編曲によるやさしいキース・ジャレット・ピアノ・ソロ

●IF I SHOULD LOSE YOU……………6

●IN LOVE IN VAIN……………10

*Improvised by Keith Jarrett*

**1. STELLA BY STARLIGHT** <N.Washington & V.Young>……………16

*Original Tune*……………36

*Improvisation の Chord Progression*……………37

*Advice*……………38

*Improvised by Keith Jarrett*

**2. IT NEVER ENTERED MY MIND** <L.Hart & R.Rodgers>……………42

*Original Tune*……………50

*Improvisation の Chord Progression*……………51

*Advice*……………52

*Improvised by Keith Jarrett*

**3. ALL THE THINGS YOU ARE** <O.Hammerstein, II & J.Kern>……………54

*Original Tune*……………79

*Improvisation の Chord Progression*……………80

*Advice*……………81

*Improvised by Keith Jarrett*

**4. FALLING IN LOVE WITH LOVE** <L.Hart & R.Rodgers>……………83

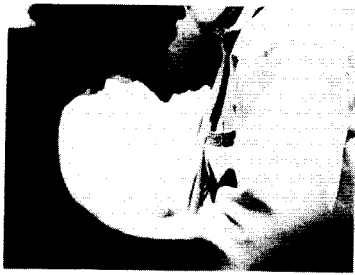
*Original Tune*……………101

*Improvisation の Chord Progression*……………102

*Advice*……………103

●キース・ジャレット・ディスコグラフィ……………106

●キース・ジャレット・ビデオグラフィ……………108



# Biography

キース・ジャレット

キース・ジャレットが我々の前に現れたのは1966年、若干21才の時であった。チャールズ・ロイドのカルテットが絶大な人気を得たころ、実に明るく輝くピアニストとしてみんなの関心を集めた。この折、同時に騒がれたドラマーがジャック・ディジョネットだった。

キースは、元来自分の過去を述べることを嫌う男だ。昔は必要があって少し語ったこともあったものの、「ひとたび語り始めると延々続いていく」と言う。「近年になれば、ひとつひとつ単行本に成るほど話題が一杯だ」と言うが、一時は一切の取材を拒否し、世のジャーナリストを騒がせたが、現在においてもそう簡単に取材できないアーティストである。つまり、的確な取材は可能であっても、その全てが的確に表現されないからだろう。ここでは、彼の信念を理解した上で紹介する。

キース・ジャレットは、1945年5月8日5人兄弟の長男としてペンシルヴァニア州アレンタウンに生まれた。バド・パウエル、アート・テイタム、ビル・エヴァンス、マッコイ・タイナーらを正統的に継承して発展するキースは、3才でピアノを習い、7才でリサイタルを開き、以後プロの道を歩むという天才ぶりを示す。また天性の感性から、ドラム、サックス、パーカッションを始め、バイブにもひとかどの腕を持っている。1962年、2時間にわたる自作の演奏会を開き、1年間奨学生としてボストンのパークリーに学んだ。その後65年にニューヨークへ出たキースは妥協することなく一人で活動の場を求め歩き、トニー・スコット、アート・ブレイキー&ジャズ・メッセンジャーズと経て66年にチャールズ・ロイドのカルテットで華々しくデビューした。この頃、ジャズ界でその名を世界的に轟かせるとともに、ロイドから数々の哲学を示唆される。特異なイデオログ、GIグルジェフを識ったのもこの時であった。グルジェフの音楽を語ることで、キースは言葉で語りえなかった自分の音楽観を見出し出していった。それから、グルジェフの書を読みあさり、どんどん近づいていった。71年の「フェイシング・ユー」に始まるソロ・パフォーマンスは、そうしたマインドづくりがベースとなっている。そして、1968年には念願のトリオを組んでポルテックスに話題作「人世の2つの扉」を吹き込み、1970年にマイルス・バンドに参加し絶大な注目を集めた。71年にはデューイ・レッドマン、チャーリー・ヘイデン、ポール・モチアンらから成る自己のカルテットを結成して活動を安定化させる一方、世界各地でソロ・ピアノ演奏会を開き、前人未踏の輝かしいピアノ・ソロの世界を築き上げ、ジャズという枠を超えた多くのファンを獲得した。インプロビゼーションを核として活動するキースは、ソロ・パフォーマンスでのきびしいセルフ・コントロール(自己抑制)が、彼の音楽人生と見事なまでにクロスして繰り広げる新しい旅にどんどんかけていく自分を知得したのだろう。何と言っても、ソロ・パフォーマンスは演る人も、聴く人も、厳しくセルフ・コントロールされるものだ。とりわけ、3枚組の「ソロ・コンサート」(ECM)はダウン・ビート誌、スウィング・ジャーナル誌など世界各国で、1974年度の最優秀レコードに選ばれ、ダウン・ビート誌国際批評家投票(1975年)で、ピアノ部門でマッコイ・タイナーと首位を分けあったほどであった。その後は、ソロ、2つのカルテット、そしてオーケストレーションと幅広い活躍でその天才ぶりを発揮している。ECMには既に20枚以上のアルバムがあるが、ピーコック〜ディジョネットとの近作は最大の話題を呼んでいる。キース・ジャレットは、今やジャズ界で最も輝かしいピアニストとして君臨するばかりでなく、今後もますます世界へ放つとてつもない音楽を創造してゆくにちがいない。

## 《本書の使用法》

④ 本書は次の様な構成になっています。

● Improvised

(注) キース・ジャレットの演奏を採譜したもの。

● Original Chord

(注) 原曲のメロディーと、原曲のコード進行。

● ImprovisationのChord Progression

(注) キース・ジャレットによって、レコードで使用されているコード進行。

曲によってはオリジナルに近いもの、又はかなりリハモナイズされたものがあります。

この項目には、アヴェイラブル・ノート・スケールと、ローマ数字によってコードの機能が理解されるように記されています。

● Advice

(注) オリジナル・チューンをどのようにヴァリエーションしたかについて理論的な説明及び演奏の際の注意について述べてあります。

⑤ "ImprovisationのChord Progression、のアヴェイラブル・ノート・スケールは、次の様に省略記号によって表記してあります。

Ionian	Ion
Dorian	Dor
Phrygian	Phr
Lydian	Lyd
Mixo-Lydian	Mixo
Aeolian	Aeo
Locrian	Loc
Lydian 7th	Lyd 7th
Altered Dominant	Alt
Combination of Diminished	Com Dim
Whole Tone	Whole Tone
Harmonic Minor Scale Perfect 5th Below	Hmp. 5↓
Altered Dorian	Alt Dor
Tonic Minor	Tonic Min
Diminished	Dim
Blue Note	B. N.

(注) アヴェイラブル・ノート・スケールの知識及び使用法について、まだ学んでいない学習者は理解することが困難かと思しますので、ジャズの理論書で学んでください。

◎コピーした楽譜を、レコードと一諸に注意深く聴き、アーティキュレーションをつかんでください。また、ジャズ独自の表現を何回も聴いて、つかんでください。

アーティキュレーション  
<articulation>メロディーやフレーズに強弱やアクセントもしくは区切りなどをつけて、どのように表現するか、という意味です。

④コード・ネームの表記で、次の様に( )のついたコードがあります。

(Falling in Love With Love)

F (Gm7)	F D7	Gm7	↑
---------	------	-----	---

上記の(Gm7)は次のFのコードを代理コードのAm7として考えれば、

|| FM7 Gm7 | Am7 D7 | のように、Fのコードが6拍続くオリジナルなコードを、  
ダイアトニック進行

キース・ジャレットによって即興的に、ダイアトニックな進行に変化したことになりま  
す。( )のコードはこの様にキース・ジャレットによって即興的に変化させたコードの  
みにつけられています。

この変化のさせかたは、次の方法もとられています。

- パッシング・コードの利用。
- V7をIIIm7 V7に変化させる。V7をbII7に変化させる。
- ドミナント・モーションを導入させる方法。

◎キース・ジャレットの<sup>レフト</sup> <sup>ハンド</sup> <sup>ボイシング</sup> Left Hand Voicingについて

キース・ジャレットのL.H.Voicingは、ジョン・ミーガン(ジャズ理論家)によって整  
理されたビル・エヴァンスのL.H.Voicingと、様々な面で異っています。学習者は一般  
的なL.H.Voicingと、どの様な違いがあるのかを検討しなさい。

①やさしいキース・ジャレットについて

初心者のために特に技術的にやさしくした編曲を、2曲掲載しました。  
左手のL.H.Voicingを全音符もしくは二分音符で表わしていますが、学習者のリズム的  
センスで自由に動かしてください。

《やさしいキース・ジャレット・ピアノ・ソロ》

# IF I SHOULD LOSE YOU

Words by Leo Robin & Music by Ralph Rainger

稲森康利：編曲

■ L.H. Voicing (左手のコード) を全音符と2分音符で表わしています。  
演奏者自身のフィーリングで左手は自由に動かしてください。

Medium

Theme

Am Bm7(b5) E7 Am

Gm7 C7 F Gm7 C7 F

F Dm7 G7(b9) C C

Am D7 Dm7 E7

© Copyright 1935, 1962 by FAMOUS MUSIC CORPORATION  
All Rights Reserved Used by permission  
Rights for Japan assigned to NICHION, INC.

Am Bm7(b5) E7 Am Gm7 C7

The first system of music consists of two staves. The upper staff is a treble clef with a melody line. The lower staff is a bass clef with a piano accompaniment. Above the staves, the following chords are indicated: Am, Bm7(b5), E7, Am, Gm7, and C7. The melody features eighth and quarter notes with some slurs and accents.

F Gm7 C7 F F

The second system of music consists of two staves. The upper staff is a treble clef with a melody line. The lower staff is a bass clef with a piano accompaniment. Above the staves, the following chords are indicated: F, Gm7, C7, F, and F. The melody includes a triplet of eighth notes in the final measure.

Dm7 G7 C E7 Am

The third system of music consists of two staves. The upper staff is a treble clef with a melody line. The lower staff is a bass clef with a piano accompaniment. Above the staves, the following chords are indicated: Dm7, G7, C, E7, and Am. The melody is composed of eighth and quarter notes.

D7 to C G7 C

The fourth system of music consists of two staves. The upper staff is a treble clef with a melody line. The lower staff is a bass clef with a piano accompaniment. Above the staves, the following chords are indicated: D7, to C, G7, and C. The melody features a sequence of eighth notes with accents.

**Improvisation**  
Am Bm7(b5) E7 Am Gm7 C7

The fifth system of music consists of two staves. The upper staff is a treble clef with an improvisation line. The lower staff is a bass clef with a piano accompaniment. Above the staves, the following chords are indicated: Am, Bm7(b5), E7, Am, Gm7, and C7. The improvisation line consists of eighth notes with slurs and accents.



F Gm7 C7 F F

Dm7 G7 C C

Am D7 Dm7 E7

Am Bm7(b5) E7 Am Gm7 C7

F Gm7 C7 F F

Dm7 G7 C E7 Am

Musical notation for the first system, measures 1-4. Chords: Dm7, G7, C, E7, Am. Includes a triplet in measure 3.

D7 G7 C E7 Theme

Musical notation for the second system, measures 5-8. Chords: D7, G7, C, E7. Ends with a double bar line and repeat dots.

Coda  
G7 (F Phrygian Scale)

Musical notation for the Coda section, measures 9-12. Chord: G7. Labeled "(F Phrygian Scale)".

Musical notation for the third system, measures 13-16. Continuation of the F Phrygian scale.

Musical notation for the fourth system, measures 17-20. Continuation of the F Phrygian scale, ending with a C chord.

《やさしいキース・ジャレット・ピアノ・ソロ》

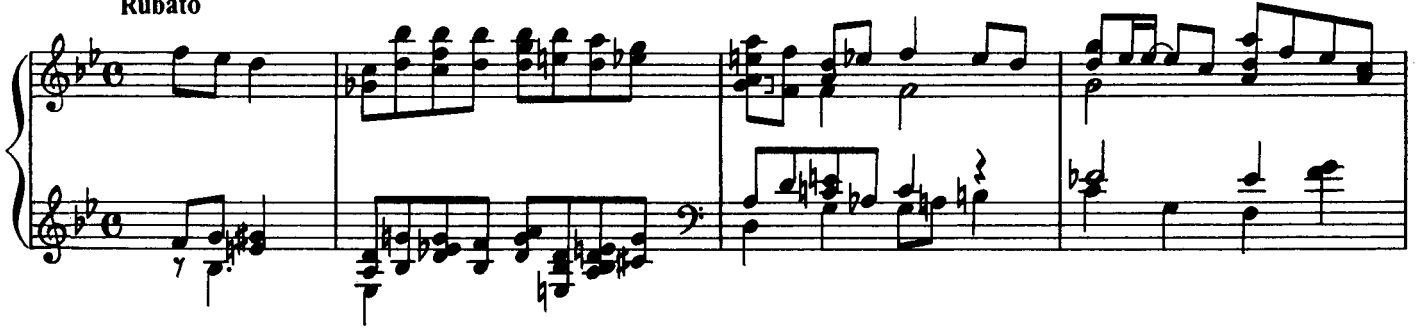
# IN LOVE IN VAIN

Words by Leo Robin & Music by Jerome Kern

稲森康利：編曲

■ L.H. Voicing (左手のコード) を全音符と2分音符で表わしています。  
演奏者自身のフィーリングで左手は自由に動かしてください。

Rubato



in Tempo

Theme

B<sup>b</sup>

Cm7

F7



Gm7

Cm7

F7

B<sup>b</sup>

G7

Cm7

F7



Dm7

Dm7(b5)

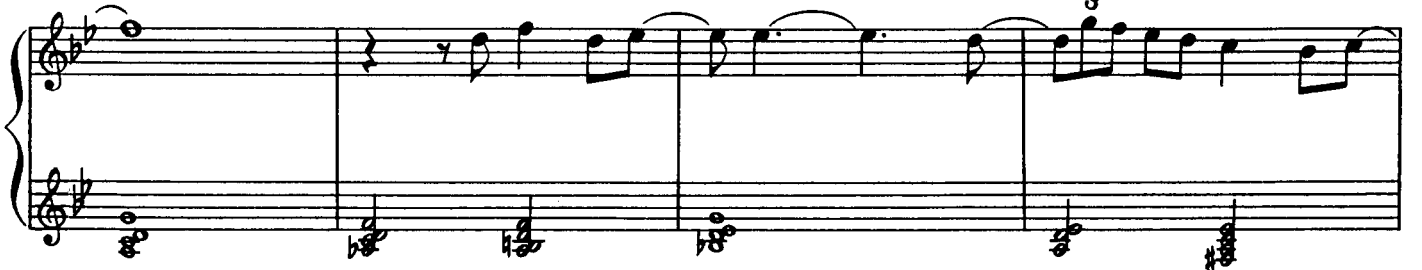
G7

Cm7

Cm7(onB<sup>b</sup>)

Am7(b5)

D7



© 1972 by T. B. HARMS CO.

Authorized Selling Agent in Japan: High Note Publishing Co., Ltd.

Gm7 Gm7(onC) C7

Cm7 F7 Em7(b5) E<sup>b</sup>m7 B<sup>b</sup>(onD) D<sup>b</sup>dim

Cm7 Cm7(onF) F7 B<sup>b</sup> G7 Cm7 Cm7(onF)

Fm7 B<sup>b</sup>7 to  $\text{C}^{\text{dim}}$  E<sup>b</sup> A7

Dm Dm7(b5) G7 Cm7 F7

Improvisation

Em7(b5) E<sup>b</sup>m7 B<sup>b</sup> F7 B<sup>b</sup> Gm Cm7 F7



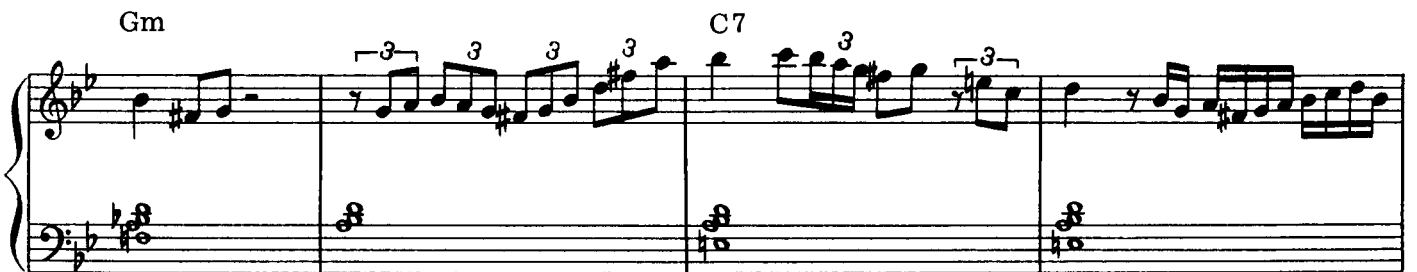
Gm7 Cm7 F7 B<sup>b</sup> G7 Cm7 F7



Dm7 G7 Cm7 Am7 D7



Gm C7



Cm7 F7 Em7(b5) E<sup>b</sup>m7



B<sup>b</sup> D<sup>b</sup>dim Cm7 F7

The first system of music features a piano accompaniment. The right hand plays a melodic line with eighth and sixteenth notes, while the left hand provides harmonic support with chords. The chords are B<sup>b</sup>, D<sup>b</sup>dim, Cm7, and F7.

B<sup>b</sup> G7 Cm7 F7 Fm7 B<sup>b</sup>7

The second system continues the piano accompaniment. The right hand includes a triplet of eighth notes. The chords are B<sup>b</sup>, G7, Cm7, F7, Fm7, and B<sup>b</sup>7.

E<sup>b</sup> A7 Dm G7

The third system of music shows the piano accompaniment with chords E<sup>b</sup>, A7, Dm, and G7. The right hand features a triplet of eighth notes.

Cm7 F7 B<sup>b</sup> Theme

The fourth system concludes the piano accompaniment with chords Cm7, F7, and B<sup>b</sup>. The section ends with a double bar line and repeat dots, labeled "Theme".

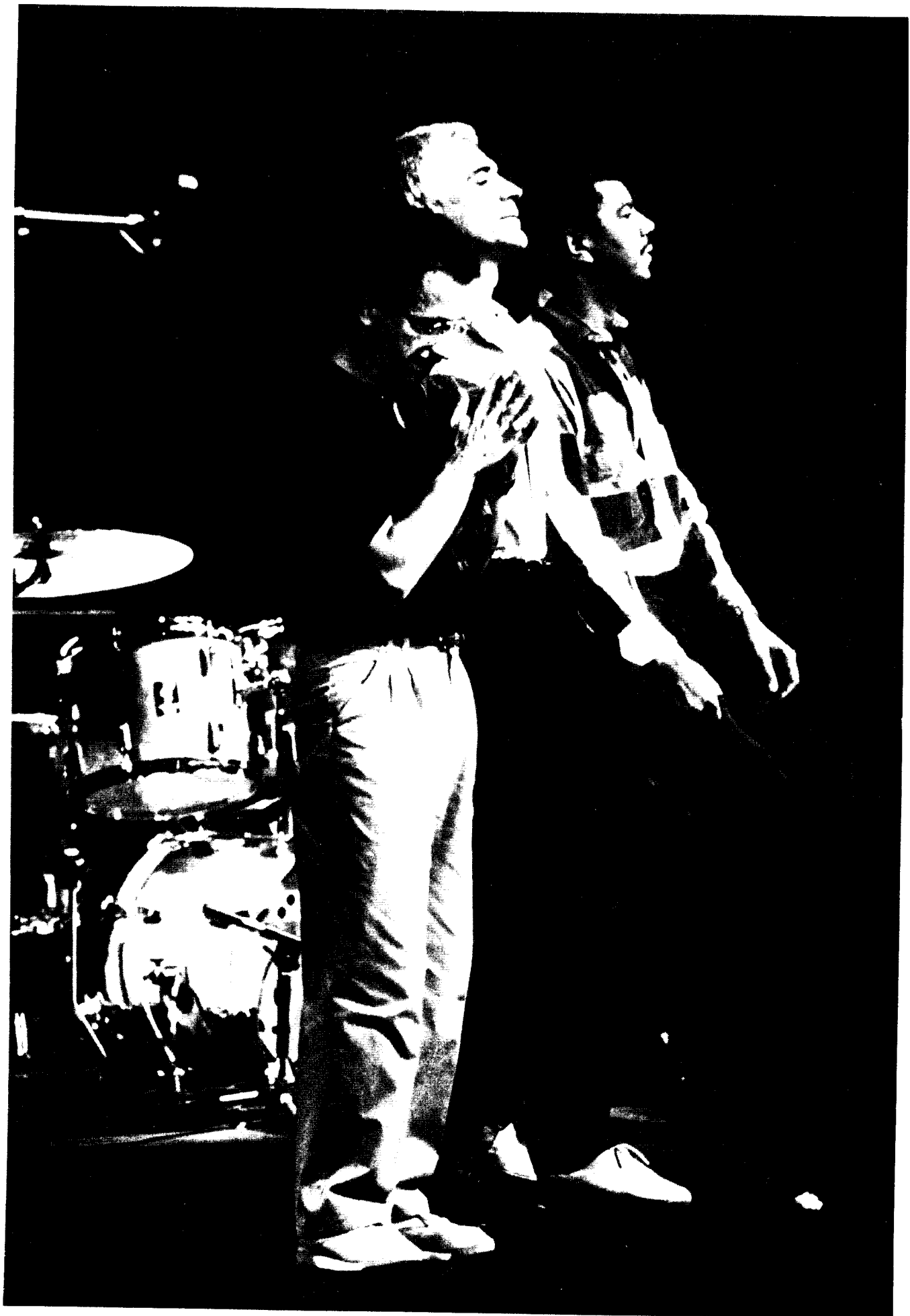
♩ Coda E<sup>b</sup> Em7(b5) A7 Dm

The fifth system is labeled "Coda" and begins with a common time signature. It features a piano accompaniment with chords E<sup>b</sup>, Em7(b5), A7, and Dm. The right hand includes triplet markings over the first two measures.

G7sus4 G7 Cm7 F7

Rubato Em7(b5) E<sup>b</sup>m7 Dm7 D<sup>b</sup>dim Cm7 F7 B<sup>b</sup>







# STELLA BY STARLIGHT

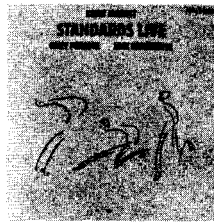
Improvised by Keith Jarrett

Words by Ned Washington

Music by Victor Young

●使用レコード

■スタンダード・ライヴ(ボリドール)



■CD:J33J-20080, LP:25MJ-3536, MC:25CJ-3536

■星影のステラ/ザ・ロング・ブルース/恋に恋して/トゥ・ヤング・トゥ・ゴー  
ステディ/オールド・カントリー/今宵の君は

■キース・ジャレット(Piano)、ゲイリー・ピーコック(Bass)、ジャック・ティ  
ジョネット(Drums)

■1985年7月録音

Rubato  $A^b M7$   $Cm7$   $Dm7$   $B^b m M7(9)$   $Am7$

Theme  $Em7(b5)$   $A7(\#9)$   $Cm7$   $F7$   $Fm7$   $B^b7$

$E^b dim$   $A^b7$   $B^b$   $(Am)$   $A7(b9)$   $Dm$   $B^b m6$   $F(addG)$

$A7$   $Dm7$   $C7$   $Am7(b5)$   $A7$   $D7$   $G7$

10

© Copyright 1946 by FAMOUS MUSIC CORPORATION

All Rights Reserved

Used by permission

Authorized to NICHION, INC. for sale only in Japan, South Korea & Formosa

Chord progression: Cm7, A<sup>b</sup>7(13), B<sup>b</sup>M7, Gm7

13

Chord progression: Em7(b5), A7, Dm7(b5), G7, Cm7, F7

16

Themeの発展部

Chord progression: B<sup>b</sup>, A<sup>b</sup>M7(#4), Em7(b5), A7, Dm7(b5), G7(b9)

19

Chord progression: Cm7, F7, B<sup>b</sup>M7, Am7(b5) D7(9), Gm7, C7

22

Chord progression: Am7, D7, C<sup>#</sup>m7, F<sup>#</sup>m, B7(b5), EmM7(#5)

25

A7(13) D7 G7 CM7aug F7 B<sup>b</sup>M7 Em7(b5) A7

28

Dm7 B<sup>b</sup>m7 Gm7(b5) A7 DmM7 Dm B<sup>b</sup>m A7(#9)

31

Dm7 B<sup>b</sup>m7 A7(#9) A<sup>b</sup>M7(#4) G7(b13) G<sup>b</sup>M7(#4) F7sus4

34

EM7 E<sup>b</sup>sus4 Dm7 (no 3rd) E D<sup>b</sup>M7(#5) D<sup>b</sup>m7 Dm7

37

Themeの再現部

Em7 A7 Dm7 G7alt Em7(b5) A7 3

40

Cm7 F7 Fm7 B<sup>b</sup>7 E<sup>b</sup> A<sup>b</sup>7(9) B<sup>b</sup> Em7(b5) A7

43

Dm7 B<sup>b</sup>m7 F C pedal G<sup>#</sup>dim Gm7 C7

46

Cm7 A7 Dm7 D<sup>b</sup>M7 Gm7onC

48

Theme  
in Tempo

Em7(b5) A7(b9) Cm7 F7(b9)

51

Fm7 B<sup>b</sup>7 E<sup>b</sup> E<sup>b</sup>m

55

B<sup>b</sup> Em7(b5) A7 Dm B<sup>b</sup>m7

59

A7 Dm7<sub>3</sub> Gm7 C7 Am7(b5) D7

63

G7 Cm7(Cdim) Cm7

67

$E^b m M7$        $E^b m7$        $A^b 7sus4$        $B^b$

71

$Em7(b5)$        $A7$        $D7$        $G7$

75

$Cm7(Cm7(b5))$        $Cm7onF$        $F7$        $B^b$

79

**1**  $Em7(b5)$        $A7$        $Cm7$        $F7$

83

87

Fm7 B<sup>b</sup>7 E<sup>b</sup> E<sup>b</sup>m7

91

B<sup>b</sup> Em7(b5) A7 Dm B<sup>b</sup>m7

95

A7 Dm7 (D7) Gm7 C7 Am7(b5) D7

99

G7 Cm

103

$E^b m$   $A^b 7$   $B^b$

107

$Em 7(b5) (Em 7)$   $A 7$   $D 7$   $G 7$

111

$Cm 7(Cm 7(b5))$   $F 7$   $B^b$

115

2  $Em 7(b5)$   $A 7$   $Cm 7$



118

F7 Fm7 B<sup>b</sup>7 E<sup>b</sup>

122

E<sup>b</sup>m B<sup>b</sup> Em7(b5) A7 Dm

126

B<sup>b</sup>m7 A7 Dm Gm7 C7 Am7(b5)

130

D7 G7 Cm

Cm E<sup>b</sup>m A<sup>b</sup>7

134

B<sup>b</sup> Em7(b5)

137

A7 D7(Dm7(b5)) G7

140

Cm7 F7 B<sup>b</sup>

143

3 Em7(b5) A7 Cm7 F7 3

147

151

Fm7 B<sup>b</sup>7 5 E<sup>b</sup>

151

154

E<sup>b</sup>m B<sup>b</sup> Em7(b5) A7

154

157

Dm B<sup>b</sup>m7 A7 Dm7

157

160

Gm7 C7 Am7(b5) D7

160

G7 Cm

8va

163

Cm Ebm7 Ab7

8va

166

Bb Em7(b5)(Em9)

169

A7 8va D7 G7

172

Cm7(b5) F7 B<sup>b</sup>

175

B<sup>b</sup> Em7(b5) A7

178

Cm7 F7 Fm7 B<sup>b</sup>7

181

185

Chords:  $E^b$ ,  $E^b m$ ,  $B^b$

188

Chords:  $E m 7(b5)$ ,  $A 7$ ,  $D m$ ,  $B^b m 7$ ,  $A 7$ ,  $D m$

192

Chords:  $G m 7$ ,  $C 7$ ,  $A m 7(b5)$ ,  $D 7$ ,  $G 7$

8va

196

Chords:  $G 7$ ,  $C m$ ,  $E^b m$

Musical score system 1, measures 200-202. Chords:  $A^b 7$ ,  $B^b$ . Measure 200 starts with a 7-measure rest in the treble staff. Measure 202 features a triplet of eighth notes in the treble staff.

Musical score system 2, measures 203-205. Chords:  $Em 7(b5)$ ,  $A7$ ,  $D7 (Dm 7(b5))$ ,  $G7$ . Measure 203 starts with a 7-measure rest in the treble staff. Measure 205 features a triplet of eighth notes in the treble staff.

Musical score system 3, measures 207-209. Chords:  $Cm 7$ ,  $F7$ ,  $B^b$ . Measure 207 starts with a 7-measure rest in the treble staff. Measure 209 features a 7-measure rest in the treble staff.

Musical score system 4, measures 210-212. Chords:  $B^b$ ,  $Em 7(b5)$ ,  $A7$ . Measure 210 features an 8va octave marking and a 5-measure rest in the treble staff. Measure 212 features a 7-measure rest in the treble staff.

Cm7 F7 Fm7

213

B<sup>b</sup>7 E<sup>b</sup> E<sup>b</sup>m B<sup>b</sup>

216

Em7(b5) A7 Dm B<sup>b</sup>m7

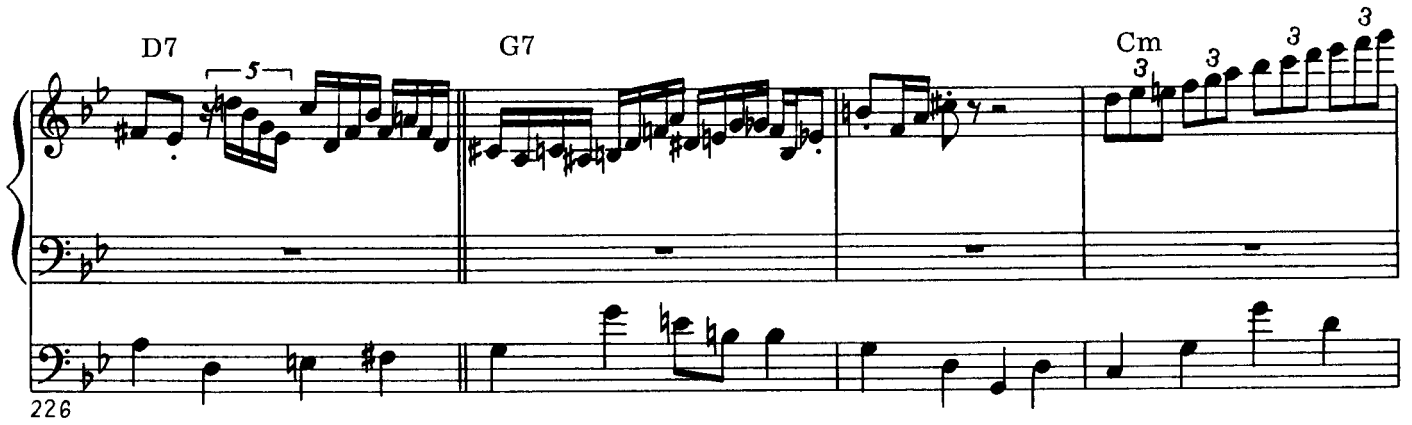
220

A7 Dm Gm7 C7 Am7(b5)

223

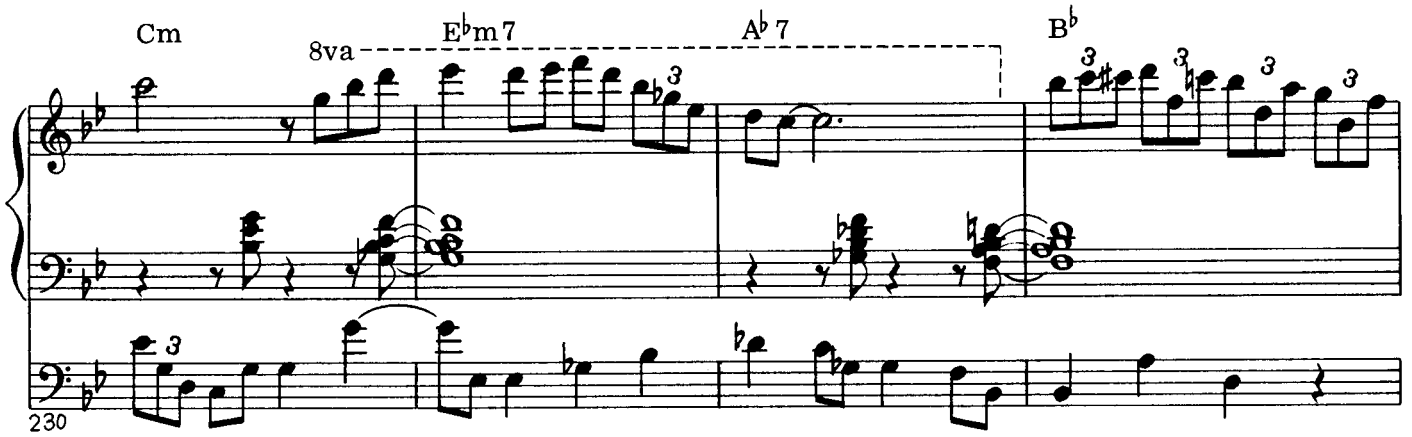


Musical score system 1 (measures 226-229). Chords: D7, G7, Cm. Includes a 5-measure slur and triplets.



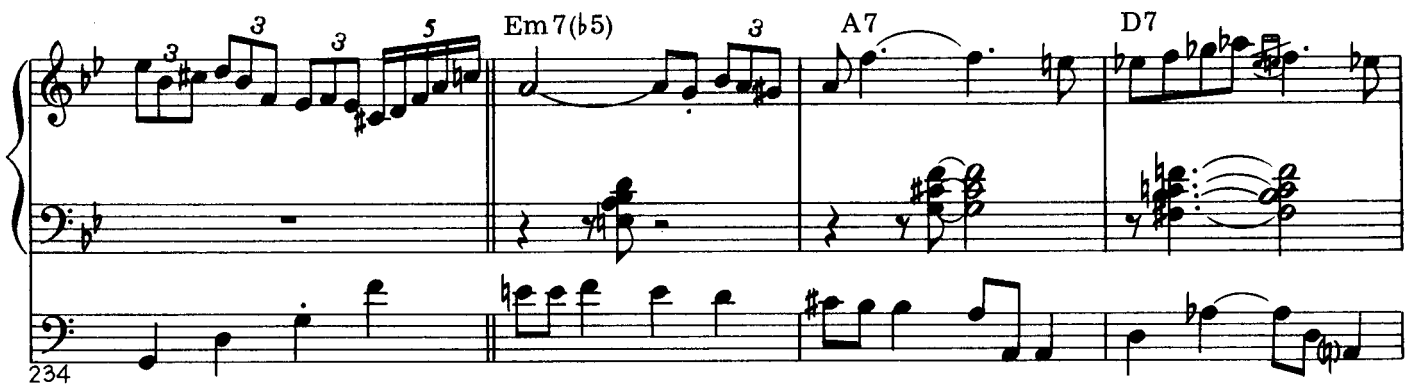
226

Musical score system 2 (measures 230-233). Chords: Cm, Ebm7, Ab7, Bb. Includes an 8va marking and triplets.



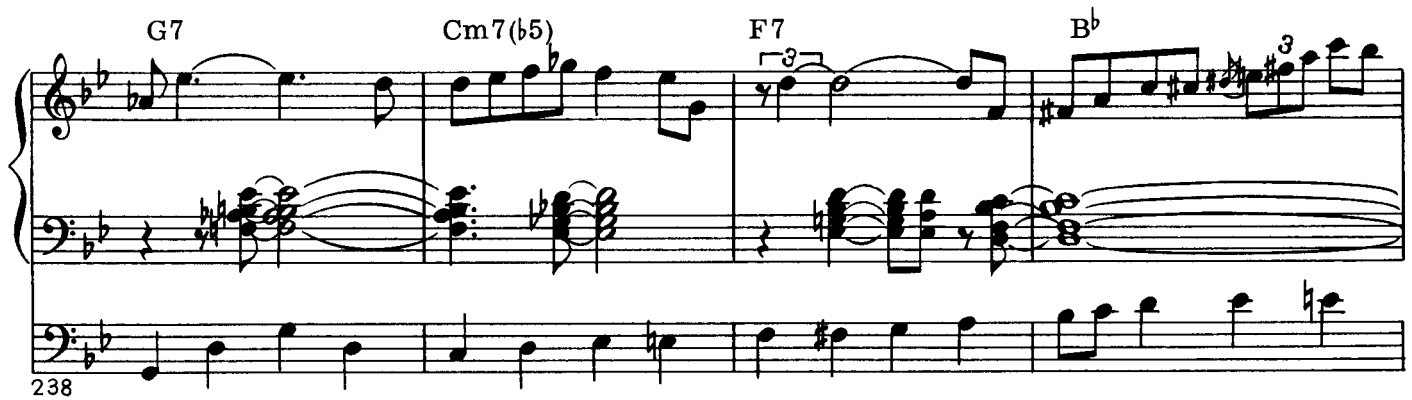
230

Musical score system 3 (measures 234-237). Chords: Em7(b5), A7, D7. Includes a 5-measure slur and triplets.



234

Musical score system 4 (measures 238-241). Chords: G7, Cm7(b5), F7, Bb. Includes a 3-measure slur and triplets.



238

Bass Solo

Musical score for Bass Solo, measures 242-244. The score is written in three staves: Treble, Bass, and a lower Bass staff. Measure 242 features a triplet of eighth notes in the Treble staff and a bass line in the lower Bass staff. Measure 243 has a whole rest in the Treble staff and a bass line in the lower Bass staff. Measure 244 contains a whole rest in the Treble staff and a bass line in the lower Bass staff. A 30-measure rest is indicated in the Treble staff of measure 244.

Last Theme

Musical score for Last Theme, measures 274-276. The score is written in three staves: Treble, Bass, and a lower Bass staff. Measure 274 has a whole rest in the Treble staff and a bass line in the lower Bass staff. Measure 275 features a triplet of eighth notes in the Treble staff and a bass line in the lower Bass staff. Measure 276 has a triplet of eighth notes in the Treble staff and a bass line in the lower Bass staff. Chord symbols Em7(b5) and A7 are placed above the Treble staff in measures 275 and 276 respectively.

Musical score for measures 277-280. The score is written in three staves: Treble, Bass, and a lower Bass staff. Measure 277 has a whole rest in the Treble staff and a bass line in the lower Bass staff. Measure 278 has a whole rest in the Treble staff and a bass line in the lower Bass staff. Measure 279 features a triplet of eighth notes in the Treble staff and a bass line in the lower Bass staff. Measure 280 has a triplet of eighth notes in the Treble staff and a bass line in the lower Bass staff. Chord symbols Cm7, F7, Fm7, and Bb7(b9) are placed above the Treble staff in measures 277, 278, 279, and 280 respectively.

Musical score for measures 281-284. The score is written in three staves: Treble, Bass, and a lower Bass staff. Measure 281 has a triplet of eighth notes in the Treble staff and a bass line in the lower Bass staff. Measure 282 has a triplet of eighth notes in the Treble staff and a bass line in the lower Bass staff. Measure 283 features a triplet of eighth notes in the Treble staff and a bass line in the lower Bass staff. Measure 284 has a triplet of eighth notes in the Treble staff and a bass line in the lower Bass staff. Chord symbols Eb(Eb dim), Eb, Ebm7, Ab7, Bb, Em7(b5), and A7 are placed above the Treble staff in measures 281, 282, 283, and 284 respectively.

285

DmM7 Dm7 B<sup>b</sup>m E<sup>b</sup>7 F Gm7 C7sus4

289

Am7(b5) 8va D7 G7(b13)

293

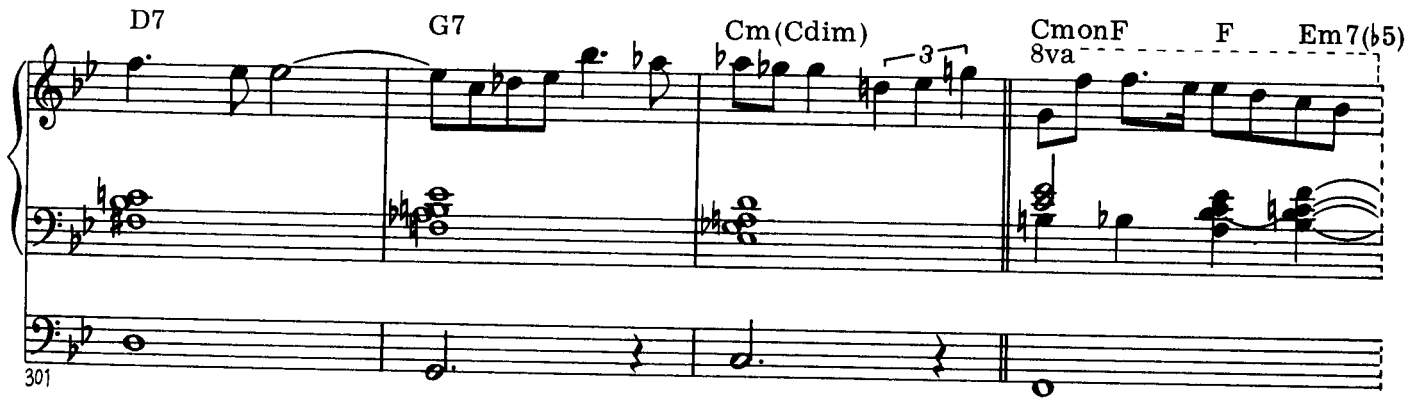
Cm7 E<sup>b</sup>m A<sup>b</sup>7

297

B<sup>b</sup> Em7(b5) A7

Rubato 

D7 G7 Cm(Cdim) Cm on F 8va F Em7(b5)



A7 Dm7(b5) G7 Cm7(b5) Fsus4 C G7(addC)



Cm7 Cm7(b5) Dm7(b5) G7(b5) Cm Em7(b5) A7



D(#5) G7 C7 F7 Bb



# STELLA BY STARLIGHT

Words by Ned Washington & Music by Victor Young

## ORIGINAL TUNE

The musical score consists of ten staves of music in a single system, all in the key of B-flat major (two flats). The notation includes various chord annotations above the notes:

- Staff 1: Em7(b5), A7, Cm7, F7
- Staff 2: Fm7, B<sup>b</sup>7, E<sup>b</sup>, A<sup>b</sup>7
- Staff 3: B<sup>b</sup>, Em7(b5) A7, Dm, B<sup>b</sup>m7
- Staff 4: F, Gm7, C7 (with a triplet of eighth notes), Am7(b5), D7
- Staff 5: G7aug, Cm7 (with a triplet of eighth notes)
- Staff 6: A<sup>b</sup>7, A<sup>b</sup>7, B<sup>b</sup>
- Staff 7: Em7(b5), A7, Dm7(b5), G7
- Staff 8: Cm7(b5), F7, B<sup>b</sup>

© Copyright 1946 by FAMOUS MUSIC CORPORATION  
All Rights Reserved      Used by permission  
Authorized to NICHION, INC. for sale only in Japan, South Korea & Formosa

# STELLA BY STARLIGHT

Words by Ned Washington & Music by Victor Young

## IMPROVISATION CHORD PROGRESSION

**A** Em7(b5) A7 Cm7 F7

Loc Dor (Alt Dor) Alt Hmp.5↓ Dor Mixo Alt

Dm; Im7(b5) V7 B<sup>b</sup>: Im7 V7

Fm7 B<sup>b</sup>7 E<sup>b</sup> E<sup>b</sup>m

Dor Mixo Alt Ion Lyd Dor

E<sup>b</sup>: Im7 V7 B<sup>b</sup>: I<sup>I</sup> IVm

B<sup>b</sup> Em7(b5) A7 Dm B<sup>b</sup>m7

Ion Alt Dor Alt Hmp.5↓ Tonic Min Dor

I Dm: Im7(b5) V7 Im <sup>b</sup>VIIm7

A7 Dm (D7) Gm7 C7 Am7(b5) D7

Alt Hmp.5↓ Tonic Min Dor Mixo Alt Alt Dor Alt Hmp.5↓

V7 Im F: Im7 V7 G: Im7(b5) V7

**B** G7aug Cm7(Cdim) Cm7

Alt Whole Tone Dor

Cm: V7 Im

E<sup>b</sup>m7 A<sup>b</sup>7 B<sup>b</sup> B<sup>b</sup>

Dor Lyd 7th Ion

B<sup>b</sup>: IVm7 <sup>b</sup>VII7 I I

**A'** Em7(b5) A7 D7 G7

Loc Dor Alt Hmp.5↓ Alt Alt

Dm: Im7(b5) V7 Gm: V7 Cm: V7

Cm7(Cm7(b5)) Cm7 F7 B<sup>b</sup> B<sup>b</sup>

Dor Dor Mixo Alt Ion Ion

Im7 B<sup>b</sup>: Im7 V7 I I

© Copyright 1946 by FAMOUS MUSIC CORPORATION  
 All Rights Reserved Used by permission  
 Authorized to NICHION, INC. for sale only in Japan, South Korea & Formosa

# STELLA BY STARLIGHT

## ADVICE

冒頭のEm<sup>7(b5)</sup>は基礎理論では、<sup>ロクリアン</sup>Locrianであるが、キース・ジャレットは<sup>ロクリアン</sup>Locrianと<sup>ドリアン</sup>Dorianを使いわけている。

Ex. 1 Em7(b5)

E Locrian

Ex. 2 Em7

E Dorian

Ex. 3

Ex. 4

キース・ジャレットは、ImprovisationにおいてEx.5のCm<sup>7</sup>のコードを<sup>トニック</sup>Tonic <sup>ディミニッシュト</sup>diminishedの形態に変化する個所が見られる。(注) Tonic diminishedは一般的に<sup>メジャー</sup>Major <sup>トニック</sup>Tonicに用いられる。Minor Tonicに用いることは、<sup>マイナー</sup>Minor <sup>トニック</sup>Tonicの特種なケースと言える。

Ex. 5 ㊦はサビの個所をさします。

Ex.6はCm<sup>7</sup>がCdimに変化したImprovisationの譜例です。Cdimは、Cm<sup>7</sup>に解決していることに注意。

Ex. 6

The musical score for Ex. 6 is written in G major (one sharp) and 4/4 time. It consists of two staves: a treble clef staff and a bass clef staff. Above the treble staff, the chords G7, Cm7(C dim), and Cm7 are indicated. The bass staff shows a piano accompaniment with a 'Tonic dim' box below it, which contains a horizontal line with an arrow pointing to the right, labeled '解決' (Resolution). The score includes various musical notations such as slurs, ties, and dynamic markings.

(注) CdimのTonic dimのコードは、dimの<sup>テンション</sup> Tension Noteが含まれています。

Ex.8

The musical score for Ex. 8 is written in G major (one sharp) and 4/4 time. It consists of a single treble clef staff. Above the staff, the chords C dim and C dim Tension Note are indicated. The score shows a piano accompaniment with a 'C dim' chord and a 'C dim Tension Note' chord.

●冒頭のBallade(バラード)のPiano Soloにおける構成と和声法について。

〈構成〉

Balladeは次の様な構成となっています。

イントロダクション (1小節目～3小節目)

テーマ (4小節目～19小節目)

テーマの発展部 (20小節目～41小節目)

テーマの再現部 (42小節目～50小節目)

(注) 最後のThemeの再現部は、Themeのコード進行が途中で終わっていることに注意。

このBalladeの構成は、全体的にソナタ形式を簡略化したものに通じます。

〈和声法〉

あえてキース・ジャレット独自の和声法と言いかねるが、Tension Resolve (テンション・ノートの解決。つまり、テンション・ノートからコード・トーンへの解決、または緊張度の強いテンションから緊張度の弱いテンションに解決すること。)の多用が見られます。主として内声におけるTension Resolveを、次に示してみましよう。



Ex. 9

Em7(b5) A7 Cm7 F7 Fm7 B<sup>b</sup>7 ★ E<sup>b</sup> (E<sup>b</sup> dim) A<sup>b</sup>7

11 - 3 11 - 3 #11 - 5 #9 - 3 11 - 3 11 - 3

4

Dm: IIm7(b5) V7 B<sup>b</sup>: IIm7 V7 E<sup>b</sup>: IIm7 V7 I IV7

(注) ★の個所は、Tonic diminishedの技法。このTonic diminishedは解決せず、diminished Chordのままどまっています。

Ex. 10

Em7(b5) A7 Cm7 F7 B<sup>b</sup> A<sup>b</sup>M7

11 - 3 11 - 3 9 - b3 11 - 3 9 - 3

16

Dm: IIm7(b5) V7 Cm: IIm7(b5) V7 B<sup>b</sup>: IIm7 V7 I

キース・ジャレットによるスタンダードな楽曲を分析するにしたがって、スタンダードな楽曲はすでにビル・エヴァンスによって「極めつくされてしまったのだ」の感が深い。

精緻なハーモニーゼーション、洗練された音感覚、スタンダードは、ビル・エヴァンスによっていきつく所迄いつてしまったようです。

次に、いくつかキース・ジャレットの和声法にふれてみましょう。

☐ Upper Structure Triadは、スケールから導き出されたトライアド(三和音)を上部構造に应用するもので、言い換えれば、「コードの領域内で、意識的に強調されたトライアドの応用」と言えます。しかし、キース・ジャレットはスケールの領域外でのトライアドの応用が見られます。

Ex. 11

Dm7(b5) G7 ★ D / Cm

17

Cm: IIm7(b5) V7 Im

Ex. 12

G7(b9) ★ D / Cm F7

21

Cm: V7 Im

★印のDトライアドは、C Dorianに含まれたトライアドではありません。スケールの領域外での応用とみられます。  
 (トニック・マイナーで使用されるスケールは、Dorian、Melodic Minor、Natural Minor、Harmonic Minorの4種。)

㊦ V7<sup>(ドミナント)</sup>に V7<sup>(♯13)</sup>、もしくは V7<sup>(♯9)</sup>が好まれます。

Ex. 13

(I) G7<sup>(♯13)</sup> L. H. (II) G7<sup>(♯9)</sup> L. H.

V7 V7

(注) 黒の音符は一般的な<sup>レフト ハンド ヴォイシング</sup>Left Hand Voicing。

㊦ 5度和声の応用例

D(♯5) G7 C7(b5) F7 B<sup>b</sup>

(5) (5) (5) (5) (5)

(注) (5)の個所が5度和声。上声部の無調的な動きに対してバスは調性的な5度進行が中心となっています。



# IT NEVER ENTERED MY MIND

Improvised by Keith Jarrett

Words by Lorenz Hart

Music by Richard Rodgers

●使用レコード

■スタンダードズVol.1 (ポリドール)

Keith Jarrett

Gary Peacock  
Jack DeJohnette

- ミーニング・オブ・ザ・ブルース/オール・ザ・シングス・ユー・ア・ノット・ネ  
ヴァー・エンタード・マイ・マインド/ザ・マスカレイド・イズ・オーヴァー/コ  
ッド・プレス・ザ・チャイルド
- キース・ジャレット(Piano)、ゲイリー・ピーコック(Bass)、ジャック・ティ  
ジョネット(Drums)
- CD:J33J-20200,LP:25MJ-3268,MC:25CJ-0027
- 1983年1月録音

Theme

F Gm7 FM7aug F Gm7 F Gm7

C Pedal-----

F Gm7 Gm7onB<sup>b</sup> A7 Dm7 Gm7 G7 Gm7onC C7

C Pedal-----

F Gm7 FM7aug F Gm7 F Gm7

C Pedal-----

Copyright © 1940 by CHAPPELL & CO., INC.  
Rights for Japan assigned to CHAPPELL/INTERSONG K. K.

F Gm7 Gm7onB<sup>b</sup> Dm7 Gm7 G7 Gm C7 Cm7 F7  
 C Pedal----- F Pedal-----

13

B<sup>b</sup>M7 Am7 Gm7 C7sus4 FdimonC FonC Gm7 C7

17

F Gm7 Am7 Bm7(b5) E7 Am7 D7

21

G7sus4 C7sus4 6 F C Pedal----- Gm7 C7

24

F Gm7 F Gm7 Gm7 C Gm7 C7 Am7 D7

C Pedal

Musical notation for measures 27-30. The system includes a treble clef, a grand staff (treble and bass clefs), and a bass clef. The treble clef contains a melodic line with eighth and sixteenth notes. The grand staff contains chordal accompaniment. A dashed line labeled 'C Pedal' spans measures 27-30. A triplet of eighth notes is marked with a '3' over it in measure 30.

27

Gm7 3 C7 Em7onA A7 Am7onD D7 Gm7 C7sus4

Musical notation for measures 31-33. The system includes a treble clef, a grand staff, and a bass clef. The treble clef contains a melodic line with eighth and sixteenth notes. The grand staff contains chordal accompaniment. A triplet of eighth notes is marked with a '3' over it in measure 31.

31

1 ♩ = ♩

F C7 F6 C Pedal Gm7 F6

Musical notation for measures 34-37. The system includes a treble clef, a grand staff, and a bass clef. The treble clef contains a melodic line with eighth and sixteenth notes. The grand staff contains chordal accompaniment. A dashed line labeled 'C Pedal' spans measures 34-37. A first ending bracket labeled '1' is placed over measures 34-35.

34

F6 Gm7 FM7 Gm7 FM7 Gm7

C Pedal

Musical notation for measures 38-41. The system includes a treble clef, a grand staff, and a bass clef. The treble clef contains a melodic line with eighth and sixteenth notes. The grand staff contains chordal accompaniment. A dashed line labeled 'C Pedal' spans measures 38-41. A triplet of eighth notes is marked with a '3' over it in measure 39.

38

FM7 C Pedal ----- Gm7 Gm7onB<sup>b</sup> A7 Dm7

8va

43

Gm7 G7 Gm7onC C7

8va

47

F6 C Pedal ----- F6 Gm7 F6 F6 Gm7

8va

51

FM7 C Pedal ----- Gm7 FM7 Gm7

8va

55

FM7 Gm7 Gm7onB<sup>b</sup> A7 Dm7

C Pedal

8va

59

Gm7 G7 Gm7 C7 Cm7 F7

63

B<sup>b</sup>M7 Am7 Dm7 Gm7 C7

67

Fdim F Gm7 C7

71

75

F C7alt Am7

78

Bm7 E7 Am7 D7

81

G7sus4 G7 Gm7 onC C7 F6 C Pedal Bbm7

8va

85

F6 C Pedal Bbm7 F6 Gm7



F6 C Pedal ----- Gm7 F6 Gm7 Gm7onB<sup>b</sup>

Musical score for measures 89-92. The system consists of three staves: Treble, Grand Staff (Left and Right), and Bass. Measure 89 features a triplet of eighth notes in the treble and a sustained C pedal point in the bass. Chords Gm7 and F6 are indicated above the staff. Measure 90 continues the triplet and introduces a Gm7 chord. Measure 91 features a sustained F6 chord. Measure 92 concludes with a Gm7 chord and a Gm7onB<sup>b</sup> chord.

89

Am7 D7 Gm7 B<sup>b</sup>m6

Musical score for measures 93-96. The system consists of three staves: Treble, Grand Staff, and Bass. Measure 93 features an Am7 chord. Measure 94 features a D7 chord. Measure 95 features a Gm7 chord. Measure 96 features a B<sup>b</sup>m6 chord.

93

Em7 A7 Am7onD D7 G7 Gm7 C7

Musical score for measures 97-100. The system consists of three staves: Treble, Grand Staff, and Bass. Measure 97 features an Em7 chord. Measure 98 features an A7 chord. Measure 99 features Am7onD and D7 chords. Measure 100 features G7, Gm7, and C7 chords.

97

Last Theme

F B<sup>b</sup> C7 F Bass Solo 67 F C Pedal-----

Musical score for measures 101-104. The system consists of three staves: Treble, Grand Staff, and Bass. Measure 101 features an F chord. Measure 102 features a B<sup>b</sup> chord. Measure 103 features a C7 chord and a Bass Solo section with a 67-measure rest. Measure 104 features an F chord and a C Pedal section with a dashed line.

101

C7sus4 Gm9  
C Pedal

FM7

Fdim

FM7

172

B<sup>b</sup>M7  
C Pedal

FM7

B<sup>b</sup>M7

F

C7sus4

Am7

D7

176

*Rubato*

Gm7

C7(b9)

Em7 A7

Am7 D7

Gm7(11)

Gm7onC

181

Fdim7

# IT NEVER ENTERED MY MIND

Words by Lorenz Hart & Music by Richard Rodgers

## ORIGINAL TUNE

Moderato

The musical score is written on a single treble clef staff in 3/4 time. It begins with a key signature of one flat (Bb) and a tempo marking of 'Moderato'. The score consists of several lines of music, each with guitar chords written above the notes. The chords are: F, Am, F, Am, F, Am, F, Am, F, Am, F, Am, Bb6, Gm, Eb7, C7, Bb6, F, Am, Em, C7, B, F, F6, Bb, Bb6, C7, FM7, F6, Bb, Bb6, C7, F6, C7, F, Bdim7, C7, Bb, Am, Bb, Am, C7, A, F, Am, F, Am, F, Am, Cm6, Bbaug, D7, Gm, C7sus, C7, F, FM7, Bb6, F, C7, F6.

Copyright © 1940 by CHAPPELL & CO., INC.  
Rights for Japan assigned to CHAPPELL/INTERSONG K. K.

# IT NEVER ENTERED MY MIND

Words by Lorenz Hart & Music by Richard Rodgers

## IMPROVISATION CHORD PROGRESSION

♩ = ♩ F6 F6 Gm7 F6 F6 Gm7 FM7 Gm7

C Pedal-----

Ion Ion Dor Ion Ion Dor Ion Dor

F: I I Im7 I I Im7 I Im7

FM7 Gm7 FM7 Gm7 Gm7 on B<sup>b</sup> A7 Dm7

C Pedal-----

Ion Dor Ion Dor Alt Hmp.5 ↓ Aeol

I Im7 I Im7 III7 VIIm

1. 2.

Gm7 G7 Gm7 on C C7 Gm7 G7

Dor Lyd 7th Dor Mixo Alt :|| Dor Lyd 7th

Im7 II7 Im7 V7 Im7 II7

Gm7 C7 Cm7 F7 B<sup>b</sup> M7 Am7 Dm7 Gm7

Dor Mixo Alt Dor Mixo Alt Lyd Phy Dor

Im7 V7 B<sup>b</sup>: Im7 V7 F: IV IIIIm7 VIIm7 Im7

C7 Fdim Fdim F Gm7 C7 F

Mixo Alt Dim Dim Ion Dor Mixo Alt Ion

V7 I dim I dim I Im7 V7 I

C7alt Am7 Bm7 E7 Am7 D7

Alt Phr Loc Alt Hmp.5 ↓ Phr Alt Hmp.5 ↓

V7alt IIIIm7 Am: Im7 V7 Gm: Im7 V7

Gm7 C7 F6 B<sup>b</sup> m7 F6 B<sup>b</sup> m7

C Pedal-----

Dor Mixo Alt Ion Dor Ion Dor

F: Im7 V7 I IVm7 I IVm7

F6 Gm7 F6 Gm7 F6 Gm7 Gm7 on B<sup>b</sup>

C Pedal-----

Ion Dor Ion Dor Ion Dor

I Im7 I Im7 I Im7

Am7 D7 Gm7 B<sup>b</sup> m6 Em7 A7

Phr Alt Dor Dor Loc Alt Loc Alt

Gm: Im7 V7 Im F: IVm Dm: Im7 V7

Am7 D7 G7 Gm7 C7 F Gm7 C7

Phr Dor Alt Lyd 7th Dor Mixo Alt Ion Dor Mixo Alt

G: Im7 V7 F: II Im7 V7 I Im7 V7

Copyright © 1940 by CHAPPELL & CO., INC.  
Rights for Japan assigned to CHAPPELL/INTERSONG K. K.

# IT NEVER ENTERED MY MIND

## ADVICE

“It Never Entered My Mind”のキース・ジャレットの演奏は大変シンプルなもので、初心者・中級者にとって大変良い教材です。

●Pedal Pointについて。

この曲の形式は次の様な一般的なもの。

A	8小節
A	8小節
B	8小節
A	10小節

キース・ジャレットは各Aの前半5小節にわたって、Pedal Pointを用いている。このPedalはDominant Pedalですが、Pedalを使うことによって、上声部のハーモニーの自由が得られることに注目しなさい。

Ex. 1

F Gm7 FM7aug F Gm7 F Gm7 F Gm7 Gm7onB<sup>b</sup>

C Pedal-----

Ex. 2

F Gm7 C7 F F Gm7 F Gm7 Gm7 C7 Gm7 C7

C Pedal-----

Ex. 3

F6 F6 Gm7 F6 F6 Gm7 FM7 Gm7 FM7 Gm7 FM7 Gm7 Gm7onB<sup>b</sup>

C Pedal-----

Ex. 4

F6 B<sup>b</sup>m7 F6 B<sup>b</sup>m7 F6 Gm7 F6 Gm7 F6 Gm7 Gm7onB<sup>b</sup>

C Pedal-----

Ex. 5

F C7sus4 Gm9 FM7 Fdim7 FM7 B<sup>b</sup>M7 FM7 B<sup>b</sup>M7 F C7sus4 C7sus4onB<sup>b</sup>

C Pedal-----

(注) Ex.1、Ex.2は<sup>テーマ</sup>Themeにおける和声の変化。Ex.3、Ex.4は<sup>インプロバイズ</sup>Improviseにおける和声の変化。Ex.5は<sup>ラスト</sup>Last <sup>テーマ</sup>Themeにおける和声の変化。この様にPedalを用いることによって、和声の自由を得ることが可能となる。

### ●Endingの技法。

キース・ジャレットのサントリー・ホールにおけるピアノ・ソロで、Endingにフリー・ジャズ的な手法が用いられているが、この曲のEndingも<sup>アトナリティー</sup>atonality(無調性)の技法が効果的。

183

185



# ALL THE THINGS YOU ARE

Improvised by Keith Jarrett  
 Words by Oscar Hammerstein, II  
 Music by Jerome Kern

●使用レコード

■スタンダードズVol.1 (ポリドール)

Keith Jarrett

Gary Peacock  
 Jack DeJohnette

■ミーニング・オブ・ザ・ブルース/オール・ザ・シングス・ユー・アー・ノット・ネ  
 ヴァー・エンタード・マイ・マインド/サ・マスカレイド・イズ・オーヴァー・コ  
 ッド・プレス・ザ・チャイルド  
 ■キース・ジャレット(Piano)、ガイリー・ビーコック(Bass)、ジャック・ティ  
 ジョネット(Drums)  
 ■CD:J33J-20200,LP:25MJ-3288,MC:25CJ-0027  
 ■1983年1月録音

Am7 D7(b9) GM7(#5)

G6 F#m7 B7(b9) EM

C7(b9) Fm7 Bbm7 Em7

AbM DbM Dbm7 Cm7

13  
 © Copyright 1930, 1940 by T. B. HARMS CO.  
 All Rights Reserved International Copyright Secured  
 Authorized Selling Agent in Japan: High Note Publishing Co., Ltd.

Bm7(b5) B<sup>b</sup>m7 E<sup>b</sup>7(b9) A<sup>b</sup>M Gm7 C7

17

Theme Fm7 B<sup>b</sup>m7 E<sup>b</sup>7 A<sup>b</sup>M

22

D<sup>b</sup>M G7 CM7

26

Cm7 Fm7 Bm7(b5) E7 E<sup>b</sup>M

30



A<sup>b</sup>M7      Am7(b5) D7      GM7

34

Am7      D7(b9)      GM

38

F<sup>#</sup>m7onB      B7(b9)      EM      Caug

42

Fm7      B<sup>b</sup>m7      E<sup>b</sup>7      A<sup>b</sup>M7      D<sup>b</sup>M

46

$D^{\flat}m7$  on  $G^{\flat}$   $G^{\flat}7$      $A^{\flat}M7$      $B m7(b5)$      $B^{\flat}m7$      $E^{\flat}7(b9)$

51

$A^{\flat}M7$      $C7$      $Fm7$      $B^{\flat}m7$

56

$E^{\flat}7$      $A^{\flat}M7$      $D^{\flat}M7$      $G7$      $CM7$

60

$Cm7$      $Fm7$      $B^{\flat}7$      $E^{\flat}M7$

65

8va

A<sup>b</sup>M7 Am7 D7 GM7

70

Am7 D7 GM7

74

F<sup>#</sup>m7 B7 EM7 Caug7

78

Fm7 B<sup>b</sup>m7 E<sup>b</sup>7 A<sup>b</sup>M7

82

D<sup>b</sup>M7      G<sup>b</sup>7      A<sup>b</sup>M7      Bm7

86

B<sup>b</sup>m7      E<sup>b</sup>7      A<sup>b</sup>M7      C7

90

[2] Fm7      B<sup>b</sup>m7      E<sup>b</sup>7      A<sup>b</sup>M7

8va

94

D<sup>b</sup>M7      G7      CM7

98

Cm7 Fm7 B<sup>b</sup>7 E<sup>b</sup>M7

102

A<sup>b</sup>M7 Am7 D7 GM7

106

Am7 D7 GM7

110

F<sup>#</sup>m7 B7 EM7 Caug7

114

118

Fm7      Bbm7      Eb7      AbM7

122

Dbm7      Gb7      AbM7      Bm7

126

Bbm7      Eb7      AbM7      C7

130

Fm7      Bbm7      Eb7      AbM7

8va-----

134

D<sup>b</sup>M7      G7      CM7

138

Cm7      Fm7      B<sup>b</sup>7      E<sup>b</sup>M

142

A<sup>b</sup>M7      Am7      D7      GM7

146

Am7      D7      GM7

F#m7 B7 EM7 Caug7

150

Fm7 Bbm7 Eb7 AbM7

154

Dbm7 Gb7 AbM7 Bm7

8va-----

158

Bbm7 Eb7 AbM7 C7

3 3

162



166

Fm7 Bbm7 Eb7 AbM7

170

Dbm7 G7 Cm7

174

Cm7 Fm7 Bb7 EbM7

178

AbM7 Am7 D7 GM7

Am7 D7 GM7

182

F#m7(b5) B7 EM7 Caug7

186

Fm7 Bbm7 Eb7 AbM7

190

Dbm7 Gb7 AbM7 Bm7

194

B<sup>b</sup>m7                      E<sup>b</sup>7                      A<sup>b</sup>M7                      C7

198

5 Fm7                      B<sup>b</sup>m7                      E<sup>b</sup>7                      A<sup>b</sup>M7

202

D<sup>b</sup>M                      G7                      CM7

206

Cm7                      Fm7                      B<sup>b</sup>7                      E<sup>b</sup>M7

210

214

A<sup>b</sup>M7 Am7 D7 GM7

8va

218

Am7 D7 GM7

222

F<sup>#</sup>m7 B7 EM7 Caug7

226

Fm7 B<sup>b</sup>m7 E<sup>b</sup>7 A<sup>b</sup>M7

D<sup>b</sup>M7      G<sup>b</sup>7      A<sup>b</sup>M7      Bm7

8va-----

230

B<sup>b</sup>m7      E<sup>b</sup>7      A<sup>b</sup>M7      C7

234

6 Fm7      B<sup>b</sup>m7      E<sup>b</sup>7      A<sup>b</sup>M7

8va-----

238

D<sup>b</sup>M7      G7      CM7

242

Cm7

Fm7

B<sup>b</sup>7

E<sup>b</sup>M7

246

A<sup>b</sup>M7

Am7

D7

GM7

250

Am7

D7

GM7

254

F<sup>#</sup>m7

B7

EM7

Caug7

258

Fm7                      B<sup>b</sup>m7                      E<sup>b</sup>7                      A<sup>b</sup>M7

262

D<sup>b</sup>M                      G<sup>b</sup>7                      A<sup>b</sup>M7                      Bm7

266

B<sup>b</sup>m7                      E<sup>b</sup>7                      A<sup>b</sup>M7                      C7

270

Fm7                      B<sup>b</sup>m7                      E<sup>b</sup>7                      A<sup>b</sup>M7

274

D<sup>b</sup>M G7 CM7

278

Cm7 Fm7 B<sup>b</sup>7 E<sup>b</sup>M7

282

A<sup>b</sup>M Am7 D7 GM7

286

Am7 D7 GM7

290



F#m7                      B7                      EM7                      Caug7

8va

294

Fm7                      Bbm7                      Eb7                      AbM7

298

Dbm7                      Gb7                      AbM7                      Bm7

302

Bbm7                      Eb7                      AbM7                      C7

306

8 Fm7 Bbm7 Eb7 AbM7

8va

310

Dbm7 G7 CM7 Cm7

314

Fm7 Bb7 EbM7 AbM7

319

Am7 D7 GM7 Am7

323

327

D7 GM F#m7

331

B7 EM7 Caug7 Fm7

335

Bbm7 Eb7 AbM7 DbM7

339

Gb7 AbM7 Bm7 Bbm7

Eb7                      AbM7                      C7                      Bass Solo  
 Bass Solo  
 70  
 70  
 70  
 8va-----  
 70

Gm7      C7                      Fm7                      Bbm7                      Eb7                      AbM7  
 9  
 417

DbM7                      G7                      CM7                      Cm7  
 422

Fm7                      Bb7                      EbM7                      AbM7  
 8va-----  
 429

Am7 D7 GM7 Am7

431

D7 GM7 F#m7 B7

435

EM7 Caug7 Fm7 Bbm7 Eb7

440

Abm7 Dbm7 Gb7 Abm7 Bm7

445

B<sup>b</sup>m7                      E<sup>b</sup>7                      A<sup>b</sup>M7                      C7

450

Last Theme

Fm7                      B<sup>b</sup>m7                      E<sup>b</sup>7                      A<sup>b</sup>M7                      D<sup>b</sup>M7

454

G7                      CM7                      Cm7                      Fm7

459

16va

B<sup>b</sup>7                      E<sup>b</sup>M7                      A<sup>b</sup>M7                      Am7                      D7

464

GM7 Am7 D7

8va

468

GM7 F#m7 B7

472

EM7 Caug7 Fm7 Bbm7 Eb7 AbM7

476

Dbm7 Gb7 AbM7 Bm7(b5) Bbm7 Eb7 Ab

480

# ALL THE THINGS YOU ARE

Words by Oscar Hammerstein, II & Music by Jerome Kern

## ORIGINAL TUNE

The musical score consists of ten staves of music in a 4/4 time signature, written in the key of B-flat major (three flats). The chords and melodic lines are as follows:

- Staff 1: Fm7, Bbm7, Eb7, AbM
- Staff 2: DbM, Dm7, G7, CM
- Staff 3: Cm7, Fm7, Bb7, EbM
- Staff 4: AbM, Am7, D7, GM
- Staff 5: Am7, D7, GM
- Staff 6: F#m7, B7, EM, C7aug
- Staff 7: Fm7, Bbm7, Eb7, AbM
- Staff 8: DbM, Gb9, Ab, Bdim
- Staff 9: Bbm7, Eb7, Ab

© Copyright 1930, 1940 by T. B. HARMS CO.  
All Rights Reserved International Copyright Secured  
Authorized Selling Agent in Japan: High Note Publishing Co., Ltd.



# ALL THE THINGS YOU ARE

Words by Oscar Hammerstein, II & Music by Jerome Kern

## IMPROVISATION CHORD PROGRESSION

Fm7	B <sup>b</sup> m7	E <sup>b</sup> 7	A <sup>b</sup> M
Aeo	Dor	Mixo Alt	Ion
A <sup>b</sup> : VIm7	IIIm7	V7	I

D <sup>b</sup> M	G7	CM	CM
Lyd	Mixo Alt	Ion	Ion
IV	C: V7	I	I

Cm7	Fm7	B <sup>b</sup> 7	E <sup>b</sup> M
Aeo	Dor	Mixo Alt	Ion
E <sup>b</sup> : VIm7	IIIm7	V7	I

A <sup>b</sup> M	Am7(b5)	D7	GM	GM
Lyd	Alt Dor	Mixo Alt	Ion	Ion
IV	G: IIIm7(b5)	V7	I	I

Am7	D7	GM	GM
Dor	Mixo Alt	Ion	Ion
IIIm7	V7	I	I

F <sup>#</sup> m7(b5)	B7	EM	Caug7
Loc Alt Dor	Alt	Ion	Alt(Whole Tone) Com-dim
E: IIIm7	V7	I	Fm: V7

Fm7	B <sup>b</sup> m7	E <sup>b</sup> 7	A <sup>b</sup> M
Aeo	Dor	Mixo Alt	Ion
A <sup>b</sup> : VIm7	IIIm7	V7	I

D <sup>b</sup> M	G <sup>b</sup> 7	A <sup>b</sup> M	Bm7
Lyd	Lyd 7th	Ion	Dor
IV	<sup>b</sup> VII7	I	<sup>b</sup> IIIIm7

B <sup>b</sup> m7	E <sup>b</sup> 7	A <sup>b</sup> M	C7
Dor	Mixo Alt	Ion	Ion
IIIm7	V7	I	Fm: V7

© Copyright 1930, 1940 by T. B. HARMS CO.  
 All Rights Reserved International Copyright Secured  
 Authorized Selling Agent in Japan: High Note Publishing Co., Ltd.

# ALL THE THINGS YOU ARE

Words by Oscar Hammerstein, II & Music by Jerome Kern

## ADVICE

「All The Things You Are」にかぎらずキース・ジャレットのインプロヴィゼーションは自由そのものだ。天衣無縫ともいえる即興演奏に対して、バークレイ・ジャズ理論をあてはめること自体愚か。

作曲家ストラヴィンスキーは理論について次の様に語っている。「理論とは、あとからの智慧。理論は副産物的存在であって、そんなものは、創造することはおろか、作品を正当化する力さえない。といっても作曲は、ふかい《理論》の直観をふくんでいる」キース・ジャレットの音楽は《理論》の直観をふくんでいるか？

### ●キース・ジャレットの2ハンド・ボイスンク。

[9]のコーラスは、キース・ジャレットにしてはめずらしく、2ハンド・ボイスンクのスタイルで演奏している。  
418 この2ハンド・ボイスンクが、好みを別として大変ユニークなボイスンク。

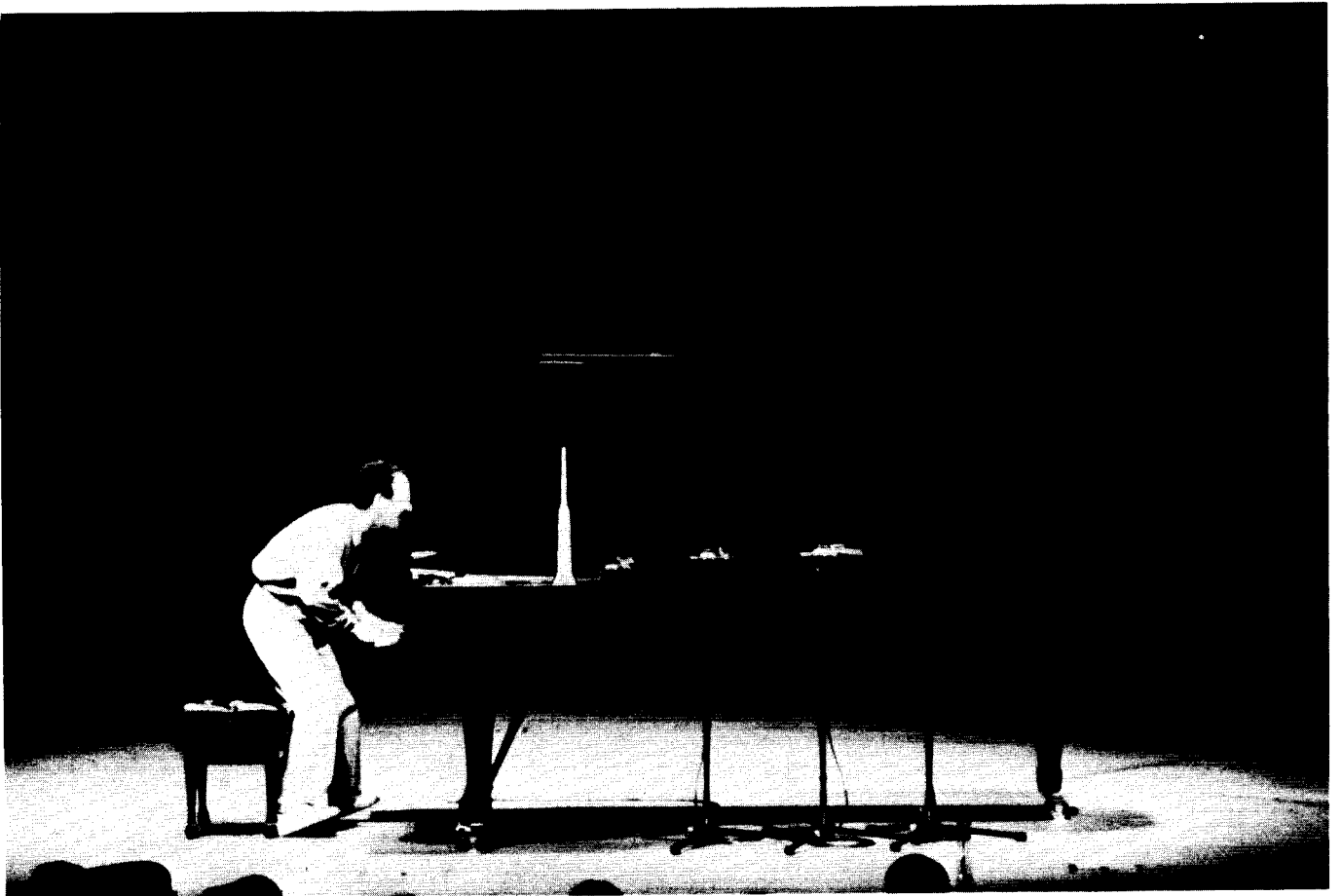
### ●「All the Things You Are」の一般的なコード。

初歩的な学習者の為に「All the Things You Are」の一般的なコード・ワークを示してみよう。

The image displays six staves of musical notation in G major, illustrating common chord progressions for the song. Each staff contains a sequence of chords and their corresponding notes on a treble clef staff. The chords are: Staff 1: Fm7, Bbm7, Em7, A7, AbM; Staff 2: DbM, G7, CM; Staff 3: Cm7, Fm7, Bm7, E7, EbM; Staff 4: AbM, Am7, D7, GM; Staff 5: Am7, D7, GM; Staff 6: F#m7, B7, EM, C7aug.

Fm7                      B<sup>b</sup>m7                      Em7                      A7                      A<sup>b</sup>M  
 D<sup>b</sup>                      D<sup>b</sup>m7                      G<sup>b</sup>7                      A<sup>b</sup>M                      Bdim7  
 B<sup>b</sup>m7                      E<sup>b</sup>7                      A<sup>b</sup>M

© Copyright 1930, 1940 by T. B. HARMS CO.  
 All Rights Reserved                      International Copyright Secured  
 Authorized Selling Agent in Japan: High Note Publishing Co., Ltd.



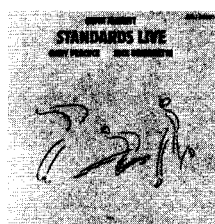
# FALLING IN LOVE WITH LOVE

Improvised by Keith Jarrett

Words by Lorenz Hart

Music by Richard Rodgers

●使用レコード



■スタンダード・ライヴ(ボリドール)

■CD: J33J-20080, LP: 25MJ-3536, MC: 25CJ-3536

■星影のステラ/ザ・ロング・ブルース/恋に恋して/トゥ・ヤング・トゥ・ゴー  
ステディ・スロウド・カントリー/今宵の君は

■キース・ジャレット(Piano)、ゲイリー・ピーコック(Bass)、ジャック・ティ  
ジョネット(Drums)

■1985年7月録音

Theme

1

F (Gm7) F D7 Gm7

5

Gm7 C7 F Gm7 C7

9

F Em7 A7

Copyright © 1938 by CHAPPELL & CO., INC.

Rights for Japan assigned to CHAPPELL/INTERSONG K. K.

13

Dm7 G7 (Dm7) G7 Gm7 C7(Gm7(b5)) C7

17

F F (A7) D7 Gm7

21

Gm7 C7 F Gm7 C7

25

F Em7 A7 D7 (Am7) (D7)

Gm7 (Adim) Gm7 C7 F D7 Gm7 C7

29

1 F F D7 Gm7

33

Gm7 C7 F Gm7 C7

37

F Em7 A7

41

Dm G7 Gm7 C7

45

F F D7 Gm7 Gm7

49

C7 F Gm7 C7 F

54

Em7 A7 D7 Gm7

58

Gm7 C7 3 F D7 Gm7 C7 2 F

62

F D7 Gm7 Gm7

66

C7 F Gm7 C7 F

70

Em7 A7 Dm G7

75



79

Gm7 C7 F F D7 Gm7

84

Gm7 C7 F

88

Gm7 C7 F Em7 A7

92

D7 Gm7 Gm7 3 C7 F D7

96

Gm7 C7 3 3 F3 3 F D7 3 3 Gm7 3

100

Gm7 C7 F Gm7 C7

105

F Em7 A7

109

Dm 3 G7 Gm7 C7

113

F F D7 Gm7 3 3 3 3 3

117

Gm7 3 3 C7 F Gm7 C7 3

121

F Em7 A7 D7

125

Gm7 Gm7 C7 F D7 Gm7 C7

4 F F D7 Gm7

129

Gm7 C7 F Gm7 C7

133

F Em7 A7

137

Dm G7 Gm7 C7

141

F F D7 Gm7

145

Gm7 C7 F Gm7 C7

149

F Em7 A7 D7

153

Gm7 Gm7 C7 F D7 Gm7 C7

157

5 F F D7 Gm7

161

Gm7 C7 F 8va Gm7 C7

165

F Em7 A7

169

Dm G7 Gm7 C7 3

173

F F D7 Gm7

177

Gm7 C7 F Gm7 C7

181

F Em7 A7 D7

185

Gm7 Gm7 C7 F D7 Gm7 C7

189

6 F 8va F D7 Gm7

193

Gm7 8va C7 F

197

Gm7 C7 F 3 3 Em7

200

A7 3 3 3 3 Dm 3 3 3 3 G7 3 3 3 3 Gm7 8va

204



C7 8va F F D7 Gm7

208

Gm7 C7 F

212

Gm7 C7 F Em7 A7

216

D7 Gm7 Gm7 C7 F D7

220

Gm7 C7 Bass Solo 8 bars (Piano & Drums)

224

Last Theme

F D7 Gm7

353

Gm7 C7 F (A<sup>b</sup>dim)Gm7 C7

357

F Em7 A7

361

365

Dm 7      G7      Gm 7      (Gm 7(b5)) C7

369

F      D7      Gm 7

373

Gm 7      C7      F      (A<sup>b</sup> dim)      Gm 7      C7

377

F      Em 7      A7      D7 (Am7)      (D7)

Ending

381

Gm7 (A dim) Gm7 C7 A7 D7

385

Gm7 C7 (Bb m7) Eb7 D7

389

Gm7 C7 A7 D7

393

G7 8va C7 Eb7 D7

397

G7 8va C7 A7 D7

401

Gm7 C7 A7 D7

405

Gm7 C7 A7 D7

409

Gm7 C7 F

# FALLING IN LOVE WITH LOVE

Words by Lorenz Hart & Music by Richard Rodgers

## ORIGINAL TUNE

Tempo di Valse

The musical score is written in 3/4 time with a key signature of one flat (B-flat). It consists of ten staves of music. The first staff begins with a treble clef, a key signature of one flat, and a 3/4 time signature. The notes are quarter notes, and the chords are F, Am, Dm, and F. The second staff continues with C7sus4, C7, Gm7, and C7. The third staff has C7sus4, C7, C7sus4, and C7. The fourth staff features FM7, F6, FM7, F6, and F. The fifth staff includes F6, FM7, F6, A7sus4, and A7. The sixth staff is the first ending, marked with a '1.' and a repeat sign, containing A7, Ddim, Dm, and Gm. The seventh staff is the second ending, marked with a '2.' and a repeat sign, containing G7, C7sus4, Gm7, and C7. The eighth staff continues with G7, C7sus4, Gm7, and C7. The ninth staff has G7, C7sus4, Gm7, and C7. The tenth staff is the final line, marked with a '2.' and a repeat sign, containing C7, F, and C7.

Copyright © 1938 by CHAPPELL & CO., INC.  
Rights for Japan assigned to CHAPPELL/INTERSONG K. K.

# FALLING IN LOVE WITH LOVE

Words by Lorenz Hart & Music by Richard Rodgers

## IMPROVISATION CHORD PROGRESSION

F F D7 Gm7

Ion Ion Alt Hmp.5↓ Dor

F: I I VI7 IIm7

Gm7 C7 F Gm7 C7

Dor Mixo Ion Dor Mixo

IIm7 V7 I IIm7 V7

1. F Em7 A7

Ion Dor Alt Dor Alt

I Dm: IIm7 V7

Dm7 G7 Gm7 C7

Dor Lyd 7th Dor Mixo

C: IIm7 V7 F: IIm7 V7

2. F Em7 A7 D7

Ion Dor Alt Dor Alt Hmp.5↓ Alt

F: I D: IIm7 V7 Gm: V7

Gm7 Gm7 C7 F D7 Gm7 C7

Dor Dor Mixo Ion Hmp.5↓ Dor Mixo

IIm7 F: IIm7 V7 I VI7 IIm7 V7

Copyright © 1938 by CHAPPELL & CO., INC.  
Rights for Japan assigned to CHAPPELL/INTERSONG K. K.

# FALLING IN LOVE WITH LOVE

## ADVICE

“Falling in Love with Love”のキース・ジャレットの演奏は大変シンプルなもの、初心者・中級者にとって大変良い教材となるでしょう。

しかし、譜面通りに初心者が演奏する場合、Left Hand Voicing(左手)のタイミングが大変むずかしいと思いますので、次の様にシンプルな譜面に直し、演奏してください。

Ex. 1

Left Hand Voicingの単純化。

- ㊦ Ex.1の様にLeft Handを、全音符か、二分音符に単純化します。
- ㊧ 学習者自身のフィーリングで、単純化されたLeft Handを自由に動かしてください。
- ㊨ 右手が大変むずかしい箇所はLeft Handを省略してもかまわない。
- ㊩ キース・ジャレットはImprovisationからはLeft Handは、まったく省略されている。この様な箇所を学習者がプレイする場合、リズム・キープに注意することが、大きなポイントとなる。

(注) Left Hand Voicingに関しては、次の音楽書を参考にしてください。

キーボード・コード・ブック(稲森康利著)音楽之友社刊 定価 800円

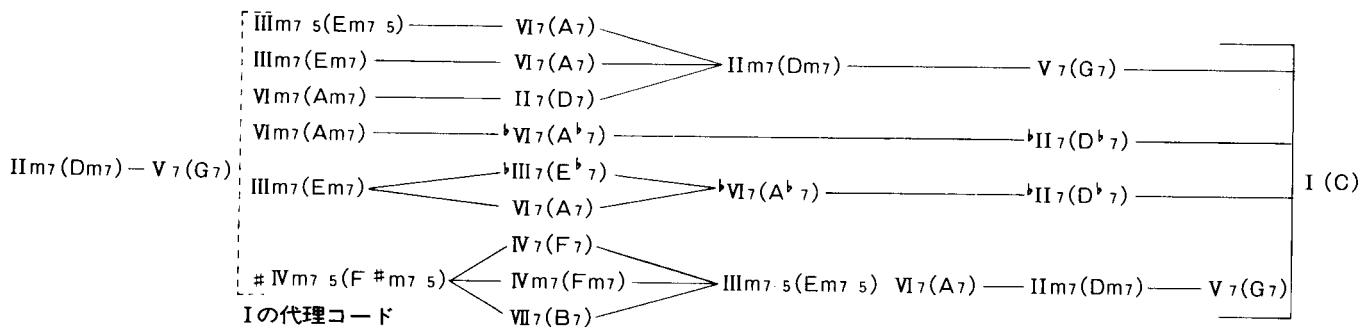
### エンディング ●Endingについて。

ラスト テーマ  
Last Themeの383小節目からEndingですが、Deceptive Cadence(偽終止)の技法によっています。

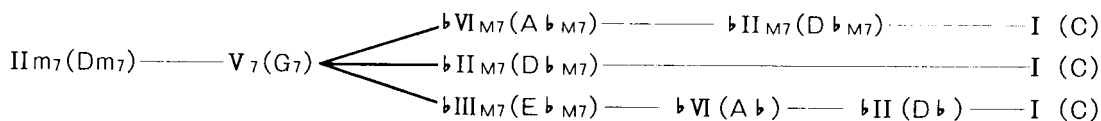


## Deceptive Cadenceの種類(Key in C)

Ex.1



Ex.2 IVm系のDeceptive Cadence

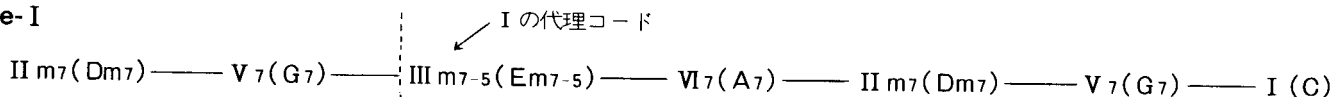


- 上記の技法はEndingにおいて大変多用される。
- Ex.2のIVm系のDeceptive CadenceはV7→Iの代理コードと考えるはいけない。Deceptive Cadenceの原理を利用してIVm系に直接入ることが可能である。

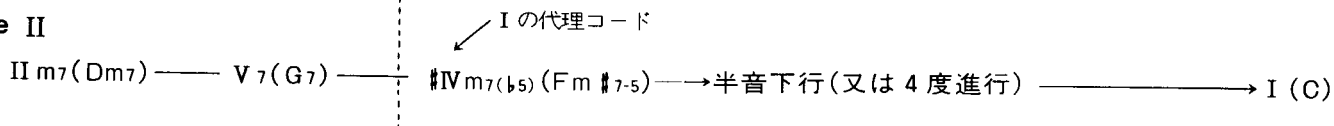
## Deceptive Cadenceの実用例

Deceptive Cadenceの種類は色々であるが、最も代表的に使われているのが、次のタイプのもの。

Type-I



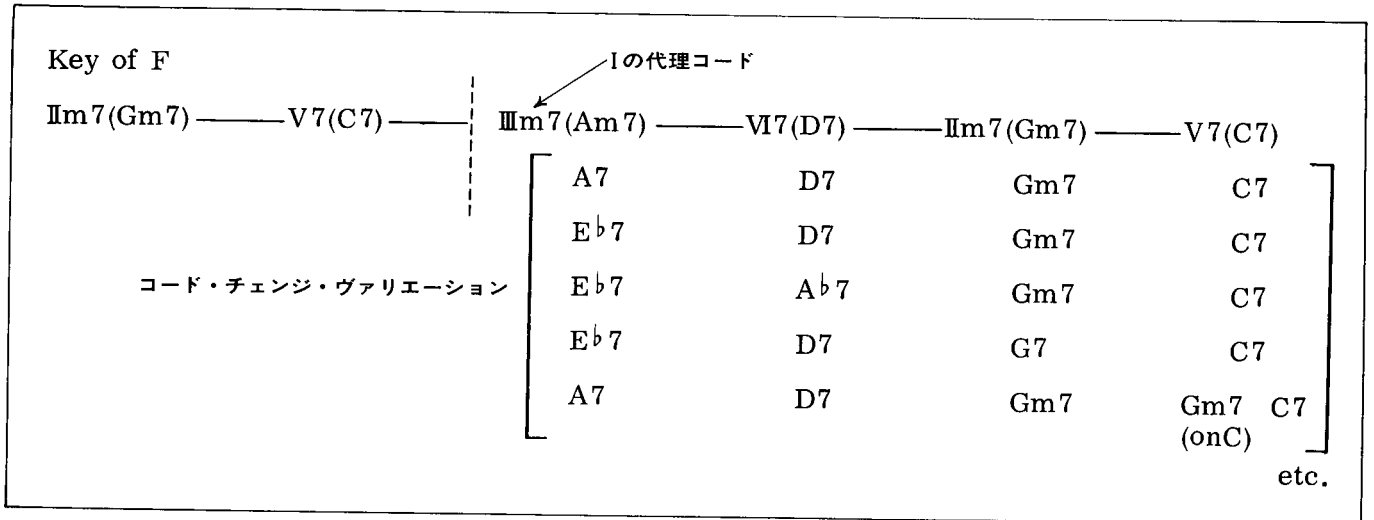
Type II



- Type I はIIIIm7-5 - VI7 - IIIm7 - V7が何回もくりかえされる (Endingの延長の為に用いられる)。
- Type IIはV7のRoot G音がNon DiatonicのF#に流れることが、新鮮なSoundがえられる原因となっている。

キース・ジャレットはType-Iを応用しています。このタイプは、Endingの延長の為に用いられるもので、次にType-Iのコード・ヴァリエーションを示してみましよう。

Type-Iのコード・ヴァリエーション



キース・ジャレットは、IIIIm7、VI7、IIIm7、V7を7回くりかえし、Endingを延長しています。



「音楽」をする時、  
 すべてが  
 「純」になっていく！  
 ステージに立った時、キース・ジャレットほど、  
 「純」という言葉が似合う人はいないのではないうでしょうか。  
 もちろん、ヘイスのグレイリー・ヒーコックも、  
 ドラムスのジャック・ティジョネットも、  
 すばらしいスヒリチャールな心の持ち主です。  
 「純」な音に浸って下さい。

キースの  
 “スタンダーズ”トリオは、  
 モダンに歌います。  
 温かくて柔かい息つかい、澄んだ硬質なタッチ  
 「ソングブック」キースのピアノからくりされる  
 “歌”が聴こえます。

最高のトリオ・パフォーマンス、  
 キース・スタンダーズ・トリオ。

みんなが知っているスタンダーズの、  
 すばらしいメロディ展開を見直してもらって  
 そこから育まれてくる僕たちの心の歌を  
 わかってもらいたいというキースの気持が  
 一気にスタンダーズ・トリオを巻き起こしました。  
 キース・スタンダーズ・トリオは、ジャズ・ファン  
 あらゆる順に対応するモダンなピアノ・トリオです。

来日する度に  
 大きな話題をふりまきます。

キース・スタンダーズ・トリオは、85年、86年を経て、  
 今回は二年ぶり三回目の日本公演です。  
 キース・ジャレット自身の日本公演は、  
 87年4月でちょうど二〇〇回開催を超えて、  
 88年春は、一〇三回を数えます。  
 毎回、超満員の人気を得て世界中から注目される日本公演  
 今から、熱気が期待されます。

## 珠玉のスタンダーズ全34曲をビデオで観る。



**STANDARDS II**  
 Keith Jarrett, Gary Peacock, Jack DeJohnette

キース・ジャレット・トリオ  
 スタンダーズ・ライヴII

曲目  
 壁に願いを / オール・オヴ・ユー / ラウ・レター / 我が心のジョージア /  
 オン・グリーン・ドルフィン・ストリート 他全11曲  
 収録：1986年10月 / 東京・入見記念講堂  
 STEREO / COLOR / 91min. [DIGITAL RECORDING]  
 VIDEO (VAH/B-0032) ¥12,000  
 LD (VAL-3032) ¥10,000



**STANDARDS**  
 Keith Jarrett, Gary Peacock, Jack DeJohnette

キース・ジャレット・トリオ  
 スタンダーズ・ライヴ'85

曲目  
 アイ・ウィッシュ・アイ・ニュー・ブレイト・ラメント / ライター / イッツ・イージー・  
 トゥー・リメンバーク / フリズム / ステラ・ハイスター・ライト 他全9曲  
 収録：1985年2月 / 東京・厚生年金会館ホール  
 STEREO / COLOR / 105min. [DIGITAL RECORDING]  
 VIDEO (VAH/B-0007) ¥13,800  
 LD (VAL-3007) ¥9,800



**KEITH JARRETT  
 SOLO TRIBUTE**

キース・ジャレット  
 ソングブック

曲目  
 アイ・ラヴ・ユー / 昔は良かったね / セア・イズ・ソー・クレイター / ラウ / ラ  
 ウンド・ミッドナイト / サマー・タイム 他全14曲  
 収録：1987年4月14日 / 東京・サントリーホール  
 STEREO / COLOR / 102min. [DIGITAL RECORDING]  
 VIDEO (VAH/B-0042) ¥10,000  
 LD (VAL-3042) ¥10,000

キース・ジャレット究極の  
 ソロ・インプロヴィゼーションを観る。

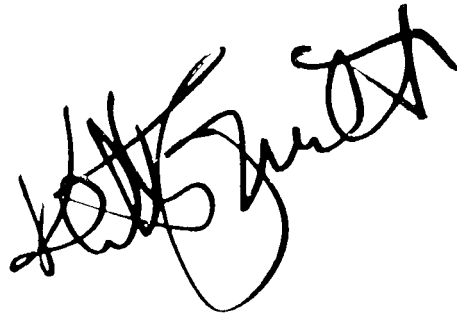
**KEITH JARRETT/LAST SOLO**  
 キース・ジャレット / ラスト・ソロ

曲目  
 東京 84ハート1 / 東京 84ハート2  
 虹の彼方に / 東京 84アンコール 全4曲  
 収録：1984年1月 / 東京・豊島区立ホール  
 STEREO / COLOR / 92min. [DIGITAL RECORDING]  
 VIDEO (VAH/B-0001) ¥11,800  
 LD (VAL-3001) ¥9,800



発売元：株式会社ビデオアーツ・ジャパン  
 〒107 港区赤坂2-5-3日交山王ビル  
 TEL 03-505-3341代





**KEITH  
JARRETT**  
キース・ジャレット ピアノ奏法  
**VOL 1**

稲森康利編曲によるやさしいキース・ジャレット・ピアノ・ソロ

- IF I SHOULD LOSE YOU
- IN LOVE IN VAIN

*Improvised by Keith Jarrett*

**1. STELLA BY STARLIGHT** <N.Washington & V.Young>

*Improvised by Keith Jarrett*

**2. IT NEVER ENTERED MY MIND** <L.Hart & R.Rodgers>

*Improvised by Keith Jarrett*

**3. ALL THE THINGS YOU ARE** <O.Hammerstein, II & J.Kern>

*Improvised by Keith Jarrett*

**4. FALLING IN LOVE WITH LOVE** <L.Hart & R.Rodgers>



ISBN4-88639-522-8 C0073 ¥2000E

★定価2,000円